

1 平成25年度 重点評価項目

キャリア教育の実践と検証 ・ 自己肯定感の育成 ・ 基本的生活習慣の確立

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 平成25年9月30日

評価者・組織(名称) : 学校評価部

】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	キャリア教育の実践と検証	生徒によるキャリアアンケート調査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教科・領域において、キャリア教育実践計画書を作成し、基礎的汎用的能力育成の視点をもった活動が展開できている。</li> <li>・家庭学習については、本校が作成したきらめき手帳を活用して、計画的に学習ができるよう指導している。しかし、学習時間は全体的に不足し、主体的な学ぶ姿勢は十分とはいえない状況にある。</li> <li>・総合的な学習は、探究・体験、キャリア・人権の4つの分野で、系統的な学習が展開できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との関連や将来へのつながりを考えた授業づくりを校内研究の共通課題として取り組む。</li> <li>・学力向上研究部が中心となり、家庭教育の啓発活動を行う。</li> <li>・きらめき手帳の活用をより活性化させ、計画的で主体的な学習ができるよう進めていく。</li> </ul>
	家庭学習の充実	生徒・保護者アンケート調査結果		
	主体的に学ぶ授業づくり	生徒による学習アンケート調査結果		
	総合的な学習の時間の充実	教職員・保護者・生徒アンケート結果		
2 豊かな心	自己肯定感の育成	生徒アンケートによる意識調査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒が、成就感や達成感を体験しているが、自信がなく自己肯定感をもてずにいる現状がある。また、コミュニケーションに不安をもち、正しい人権感覚は身につけているが、友人関係に必要以上に気を遣う傾向がある。</li> <li>・地域の協力により、ゆかた登校をはじめとする伝統文化体験が充実し、郷土愛や地域で生きる自覚が育っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動や道徳の時間・体験活動を有機的につなぎ、自己有用感が獲得できる活動を展開する。</li> <li>・日常的に生徒の長所や頑張りを見つけ褒めることを積極的に行う。また、教育相談では事前アンケートを有効に活用し、生徒との共感的人間関係を築く。</li> </ul>
	豊かな体験活動の実践	教職員・保護者・児童アンケート結果		
	自他を尊重できる人権教育の充実	道徳教育全体計画の実施状況		
	規範意識の醸成			
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	生徒アンケートによる意識調査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起床時間や朝ごはんについての生活習慣は身につけているが、就寝時間が遅く体調不良や遅刻の原因となっている。</li> <li>・保健体育科によるけがの防止に向け、安全を最重視した授業が展開されており、大きなけがをする生徒数は減少している。</li> <li>・目、歯、防煙防止、薬物乱用防止の健康学活を計画的に行うことにより、健康への意識は向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭、保健主事を中心として、ポスターや保健便り、学校便りを活用して、就寝時間の改善をはじめ健康増進への啓発活動を行う。</li> <li>・地域の協力を得て、昼休み等からだを動かし体力づくりの一助となるよう、屋上グラウンドへのバスケットゴールの設置を行う。</li> </ul>
	体力の向上	スポーツテスト結果・けが状況調査集計(保健室より)		
	健康教育の充実	生徒アンケートによる意識調査結果		
4 学校独自の取組	小中一貫教育の推進	小中合同研修会の実施・教職員アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育担当者を中心にして、小中合同主任会や研修会を行い、学力向上や規範意識の醸成に向けた取組や交流行事を行うことができた。</li> <li>・"いのちプロジェクト"に関しては、避難訓練を活用した取組を行ったが、十分な活動ができなかった。</li> <li>・学校HPは精力的に更新し、学校便りもタイムリーに発行することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中9年の連続した教育活動への理解と家庭教育の指針となる啓発紙「協働ノススメ」を、小中合同で制作する。</li> <li>・12月・1月に大学教授をはじめとする外部人材を活用して、"いのちプロジェクト"を展開する。</li> <li>・各種アンケート結果や学校運営協議の報告を含めた情報発信をより活発に行う。</li> </ul>
	"いのちプロジェクト"の推進	外部人材の活用状況		
	情報発信の充実	学校HP・学校便りの更新状況 保護者アンケート		

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 6月18日

評価者・組織 : 学校運営協議会 , 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全般において理解を得ることができた。特に伝統文化体験や探究学習等の本校が独自に進めている教育について、高い評価を得た。</li> <li>・生徒の自転車通学の状況については、交通ルール違反や危険運転について指摘があり、安全教育推進の要望を受けた。一方、ルールを守るという規範意識の醸成をはじめとする教育を、学校に任せ過ぎている現状を改善し、家庭において「ルールを守る」「約束を守る」といった教育を見直す必要性についても指摘があった。</li> <li>・図書館教育をより活性化させるために、図書館開放の地域ボランティアの増員の意見を得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全主任を中心として、自転車通学の現状を調査し、改善に向けて点検活動を充実させる。また、安全教育への呼びかけをPTA活動で行うとともに、危険運転や交通ルールも守れない生徒の家庭に対して連絡を取り合い、学校と家庭とが協力して安全教育をはじめとする規範意識の向上を図る。</li> <li>・図書教育主任、図書館教育支援員を核に、図書館教育を充実のための環境と計画を整備し、必要なボランティアの募集を行う。</li> </ul>

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 : 平成26年1月16日

評価者・組織(名称) : 学校評価部 】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	キャリア教育の実践と検証	生徒によるキャリアアンケート調査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教科・領域において作成したキャリア教育実践計画書を活用し、他教科の指導方法を取り入れた研究授業を行った。</li> <li>・家庭学習については、懇談会や学校便りを利用し、家庭への啓発活動を行った。</li> <li>・総合的な学習は、探究・伝統文化体験、キャリア・人権の4つの分野で、系統的な学習が展開できている。特に、探究活動について3学年で系統的で優れた活動ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科、他領域との関連や将来へのつながりを考えた授業づくりを校内研究の共通課題として継続的に取り組む。</li> <li>・本校独自のきらめき手帳の活用を活性化させるため、生徒の意見を取り入れ、より使いやすい手帳への改良を行う。</li> <li>・キャリア学習(進路学習)の充実を図るため、小学校・高校と連携した、長期ビジョンでの指導計画を作成する。</li> </ul>
	家庭学習の充実	生徒・保護者アンケート調査結果		
	主体的に学ぶ授業づくり	生徒による学習アンケート調査結果		
	総合的な学習の時間の充実	教職員・保護者・生徒アンケート結果		
2 豊かな心	自己肯定感の育成	生徒アンケートによる意識調査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校と連携を図り、中学校ブロック全小中学校で、自己肯定感を高める道徳の授業等を行うことができた。</li> <li>・3学年で組織的な人権学習を行い、現代の様々な人権的課題について学習させることができた。</li> <li>・いじめの問題をはじめとする生徒間の人間関係の問題について、細かな観察を行い適切な指導を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい人権感覚を身につけさせるため、研究を推進するキャリア教育の一環として、人権学習のより充実を図る。</li> <li>・学級活動や道徳の時間・体験活動を有機的につなぎ、自己有用感・自己肯定感が高まる活動を展開する。</li> <li>・生徒観察や教育相談、相談事前アンケート等により生徒の状況を的確に把握し、共感的人間関係を築き、自己指導力を高める取組を行う。</li> </ul>
	豊かな体験活動の実践	教職員・保護者・児童アンケート結果		
	盲他を尊重できる人権教育の充実	道徳教育全体計画の実施状況		
	規範意識の醸成			
3 健やかな体	基本的な生活習慣の確立	生徒アンケートによる意識調査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起床時間や朝ごはんについての生活習慣は身につけているが、就寝時間が遅く体調不良や遅刻の原因となっている。</li> <li>・保健体育の授業、自転車安全教育等の効果により、大きなけがする生徒数は減少している。</li> <li>・学校医等と連携した目、歯、防煙防止、薬物乱用防止の健康生活を計画的に行うことにより、健康への意識は向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭、保健主事を中心として、ポスターや保健便り、学校便りを活用して、就寝時間の改善をはじめ健康増進と遅刻防止への啓発活動を行う。</li> <li>・保健体育授業を中心として、健康や運動の関心を高め、健康管理を大切に生活設計ができる力を育成する。</li> </ul>
	体力の向上	スポーツテスト結果・けが状況調査集計(保健室より)		
	健康教育の充実	生徒アンケートによる意識調査結果		
4 学校独自の取組	小中一貫教育の推進	小中合同研修会の実施・教職員アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育担当者を中心とした小中合同主任会で、小中9年の連続した教育活動への理解と家庭教育の指針となる啓発紙「協働ノススメ」を製作した。</li> <li>・"いのちプロジェクト"の一環として、京大教授の講演会を行い、ゴリラを通して生命について考える取組行うことができた。</li> <li>・学校HPは精力的に更新し、学校便りもタイムリーに発行することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育をより推進するため、小中教員により各教科における一貫教育カリキュラムの作成する。</li> <li>・"いのちプロジェクト"を、自殺防止やいじめ防止の目的を強め展開する。</li> <li>・各種アンケート結果や学校運営協議会の報告を含めた情報発信をより活発に行う。</li> </ul>
	"いのちプロジェクト"の推進	外部人材の活用状況		
	情報発信の充実	学校HP・学校便りの更新状況 保護者アンケート		

3-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成26年2月26日

評価者・組織 : 学校運営協議会, 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全般において理解を得ることができた。特に、教職員の生徒や保護者への対応や授業研究において高い評価を得た。</li> <li>・開校から7年が経過し、開校前の5中学校の文化が融合されて下京中学校としての独自色が生まれ、良い学校に成長しているとの評価を受けた。</li> <li>・夢や目標の持てない子どもが多い中、教職員や保護者などの身近な大人が、元気な姿・学び続ける姿を見せることが大切であると意見を聞いた。また、教職員への過度な負担がかからないような体制づくりに協力していくとの支援の言葉を受けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導や学力向上の課題、保護者からの要望を、組織的に分析し、より効果的な教育活動を進めるための協働体制を構築する。</li> <li>・保護者や地域の大人が元気づけられる活動を企画運営する。</li> </ul>

4 総括・次年度の課題

・学校評価部を中心にして学校評価を適切に行うことができた。また、学校評価について2回の校内研修を行い、教職員全体に学校評価を活用した指導方針の共通理解が図れた。  
 ・学校関係者評価や自己評価をもとにした教育活動全体の検証に重点置き、効果的な行動計画の作成に役立てる。